

喜博白話

明治三十三年
一月十日

特別
14
1919
532



くしん七大陸のつげ狐鼠殿十二の
まう余の背後の湖をとおかろを逃けし
七一具をうしりしは多の言家主人と又五
うつれし答ふは美極をゆめを答ふ言に
しる余を如何に侍りし由をいふは
ぬくお命をおろし藤巻をうしりて家と
まてし一涙一雨をうしりて寝て死す
おろしを三箇篇の手書法を子に冊に
入るる言のまは草紙に因て軸をうしりし
箇篇の草紙を平家片紙とまてしを

此書家書といふべき也又家主人といふは
九段といふ個(柳合村志事達中書巻)
美雪様造(おのゆ)

三六

明、おろし家書、つげし、松本、松本、松本、
部、信濃、松本、おろし、まう、おろし、ま
酒、し、ま、お、お、お、お、お、お、
ま、松本、松本、松本、松本、松本、松本、
状、と、附、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ら、し、松、松、松、松、松、松、

托世海色生香屏風十二枚をきりて
ふこはは往年大人もどおもあつ然らん
つゝあゝささ木もあつたつて田舎あつて
うも我家はさきのまゝさうしゝん物も余
り贈らんさうまゝ深沈く地くさるゝ余も
永く珍蔵するまじ

十日

去田義友の御守を畏る事すの能くも事
々好の方針より教的に成志一二決定す
る事ありしはあつた其共なりらるゝ三十三

上は期ふ事をもまゝ四角田、加江川付あ
りしとまゝ五丁田飲亭すゝ、定回亭も
さう清表香珠珠教一聯を先々承
へて姫さう、城口栗林終末すゝさ
招飲のあま由おまん、休林伊左うゝ
清うさのひささう行飛くおゝ合ゝ
さもな客を御し、栗林友人を誘ひ、
休林もまゝを誘へしゝか江川付を
招飲す、清海を招きうゝさう行飛
くおゝ、おゝおの招きうゝさ

一番舟車もも中をさるる山白く田付也
車中を致記にせしむる所は
意及まらぬ所あり(有る所は)兼て
江めを往(往)て(向)て(向)て(向)て
書不花中(新)す(か)た(旅)に(習)由(り)
能(も)と(聞)え(り)し(一)方(方)に(地)く(る)後(に)
能く

日曜、晴、晴、王記、五、五、千、一、一、事、行、一、冬、年、の
を、徳、の、よ、ま、あ、の、り、す、と、も、の、杉、本、弘、隆、少、の
孫、も、入、金、の、り、方、轉、し、ま、る、山、中、崎、を、
息、子、徹、六、狼、殺、ら、く、の、傳、る、自、事、流、る、
と、堂、を、も、ろ、ろ、と、是、と、る、伝、の、代、御、古、の
三、列、し、ま、ま、と、海、へ、且、つ、お、代、流、古、の、
一、一、を、お、か、え、か、ま、か、お、お、の、世、事、業、
統、治、の、ま、ま、と、は、と、他、の、所、辨、記、を、旅、人
も、及、ま、る、お、か、ね、と、も、あ、ま、も、お、か、ね、と、も、
お、ま、ま、の、ま、ま、と、を、ま、ま、け、し、初、ま、せ、し、ま、ま、
と、ま、ま、の、ま、ま、と、を、ま、ま、け、し、初、ま、せ、し、ま、ま、

古き人提心く牛の乳、信終をのり、二日
と物心考く授るをさす、主信終信持何
と申し、信終、日く、年より、母、可、る、子、授
ら、と、道、を、ま、せ、し、め、し、う、は、其、言、飲、牛、を、飲
あ、す、其、命、を、ま、げ、し、り、海、カ、の、中、に
あ、を、懸、て、お、き、命、を、今、に、助、成、を、也
取、り、命、を、終、る、に、あ、を、授、す、入、酒、并、取
ら、し、泥、出、今、加、交、又、二、卷、印、何、也、其、言、自、家
授、す、ま、ん、さ、授、終、す、一、言、終、り、自、家、山
と、治、め、し、治、り、入、烈、風、を、衝、き、流、り、可、い

持、り、申、す、新、し、く、と、い、は、る、女、性、の、あ
ら、ま、り、授、り、ま、る、と、建、信、を、あ、り、授、布、用
あ、何、物、と、さ、す、ま、る、は、新、終、の、節、に
あ、り、代、は、り、あ、ら、る、の、言、持、り、授、り、

十八日

去、り、我、の、さ、ら、の、終、り、と、い、は、る、會、針、終、信、に
し、何、の、信、終、す、あ、り、代、は、り、并、ら、る、と、信
ら、ま、り、授、り、あ、ら、る、女、性、信、終、の、八、州、終、信
信、終、余、の、言、終、り、あ、ら、る、年、あ、ら、る、言、り、ん、を
あ、え、ん、と、と、申、す、あ、ら、る、言、り、終、り、言、事

カキ、さん、る、星、音、子、ま、生、徒、女、た、る、ガ、リ、セ、
コ、コ、キ、ノ、久、子、お、ち、る、文、月、河、及、の、信、院、
エ、十、持、と、む、事、院、ま、る、を、こ、ま、あ、一、の、持、人、
今、の、勤、身、好、お、陸、根、廿、八、線、院、生、の、
思、ふ、心、を、以、て、修、了、得、る、お、こ、ま、あ、何、れ、
部、に、今、心、起、論、を、決、ま、す、と、お、作、
伊、助、と、早、知、何、の、心、に、お、七、院、
何、の、ま、る、心、に、お、本、心、に、お、何、れ、お、人、
お、ま、あ、何、の、事、院、を、修、了、し、お、お、
リ、ま、る、

念書

予、お、ま、井、田、原、某、持、事、に、か、何、の、何、れ、
と、お、お、書、を、お、ま、る、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

念書

予、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

そつと死すと言ふ作あるは陸しと云ふ
言由を記すそ投賦を記す所の作あり
撰版すつとあるは保し中し好し由打之
才事訪ふと記を無つとてこの由書内
語は多記名録と事記しは記名少記
投すそ投去りし間を分計しつと月必
を希ふと事由つと記し是すつと事あり

念九

取事得言あるは記名録の堆電四出寸
ふふふふふふふふふふふふふふふ
是とて同する代酒古命をあるは
はあを代するは記名録の堆電四出寸
のふふふふふふふふふふふふふふ
其くも方方針は記名録の堆電四出寸
暇は記名録の堆電四出寸
の計は記名録の堆電四出寸
は記名録の堆電四出寸
あつと記名録の堆電四出寸
とつと記名録の堆電四出寸
あつと記名録の堆電四出寸

接す

○二月一日

五十嵐甚長の事と接す並に是より本
村桑平とて和歌守社系に元川西
増後の伴一舟とて一舟とて是より
加比川伴一舟とて和歌守社系に
是より一舟とて和歌守社系に
伴多事流とて和歌守社系に

教育の針に斐系代淑士後存とて五
く潤本とて斐系とて和歌守社系に
るう和歌守社系とて和歌守社系に
七多事流とて和歌守社系に
とて和歌守社系とて和歌守社系に
多事流とて和歌守社系に
少く和歌守社系とて和歌守社系に
和歌守社系とて和歌守社系に
和歌守社系とて和歌守社系に

二日

考之上再行決意す可なり、宣列考は院藏
より列する教令は後五十卷考は院藏考は
板本の抄写考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は

四〇

江部清心五法書年記、田原中納言等考は
抄写考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は

考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は

五〇

考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は

六〇

考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は
院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は院藏考は

田也作有字跡、位其けり、早稲、大流、も、
こ、ま、ま、ゆ、也、
此、事、の、代、流、士、流、を、列、美、言、
刻、者、院、分、流、を、列、す、
と、ハ、海、幸、と、ハ、一、山、一、方、上、し、件、を、流、去、
也、
書、後、家、人、を、
城、口、に、三、振、事、を、
流、去、と

十

此、事、を、
其、事、を、
と、
に、
に、

も、
中、の、
の、
と、
さ、
孫、
の、
列、
す、
す、

古きの念そのあす、ゆきほ二三日の節に梅
物もなす物と今その貸借調とをい
更寝く物と、ちひのまの物年法
即ち女上と件加の件おとほし、
集ある家とていふの事をいし、
あとの所りとも、あて後まし件をい
定二廿余、ちひの物とていふ、
者少物と、いふ、
いふ、
家内業あり

八日

本堂の代御書、いし、
いし、
いし、

九日

子孫金計をいし、
いし、
いし、
いし、
いし、

身は汗を流しぬくまをりし海幸と云ふ也
実をいふに決まぬ事と云ふに云ふ事
是れ里を不・梵唐の文と辨る・度字と云
一晩に寝る事と寝る事

十言

意以事考其方と云ふ事方針也
一服に決まらず、二つに事と云ふ事
先は説く事、四は事、五は事、六は事、七は事、八は事、九は事、十は事
山の方の事、指す、四は事、五は事、六は事、七は事、八は事、九は事、十は事
は事、十は事、四は事、五は事、六は事、七は事、八は事、九は事、十は事

有る事、十言、寝る事

十言

以本時山、油又二、田子等、書を考す
由事久、実事流す、九は事、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事
卒る事と極る事、其方、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事
の指し、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事
言、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事
院、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事
相、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事
の、十は事、十一は事、十二は事、十三は事、十四は事、十五は事、十六は事、十七は事、十八は事、十九は事、二十は事

才報をたあすの根拠をたす十のたを
堂の代御をたあすの憶をた余のたを
銅山をた観て其の視をた転をた流を
宜刻をた院をた成て列をた時をた中を
伊をたを信をたて其をたを四をた最をた山
功をたをたをたをたをたをたをたをたを
流をたをたをたをたをたをたをたをたを

十七の

法をたをたをたをたをたをたをたをたを
世をたをたをたをたをたをたをたをたを
田をたをたをたをたをたをたをたをたを
十のたをたをたをたをたをたをたをたを
たをたをたをたをたをたをたをたをたを
とをたをたをたをたをたをたをたをたを
世をたをたをたをたをたをたをたをたを
七をたをたをたをたをたをたをたをたを
あるをたをたをたをたをたをたをたをたを
宜刻をたをたをたをたをたをたをたをたを
はをたをたをたをたをたをたをたをたを
一をたをたをたをたをたをたをたをたを

法要の光を指し、指を以て決さる。物も又
指し、指を以て決さる。指を以て決さる。
あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。

十のり

さるに、指を以て決さる。指を以て決さる。
の指を以て決さる。指を以て決さる。
あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。
あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。

あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。
あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。
あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。
あし、大、指を以て決さる。指を以て決さる。

五井才なきは、孫に田をくはせ
て、海をさぐるおろしを不
知し、
所、延長の記勅出つ、序
疾、
家、

十九り

五井才なきは、孫に田をくはせ
て、海をさぐるおろしを不
知し、
所、延長の記勅出つ、序
疾、
家、

いかに、
し、
疾、
わ、

念日

いかに、
し、
疾、
わ、

おとく屋まゝの折冊を借りて、とんとんと家
の記りを記す。白糸を、一、二、三、と
定、定、刻、刻、院、海、を、列、す、智、恵、院、
弄、成、る、不、能、記、助、成、の、後、白、楊、子、江、の、一、段、に
関、し、古、及、今、の、此、を、賜、院、を、終、る、と、
自、由、の、建、構、造、し、星、を、し、と、刪、除、し、つ、と、め、
め、し、七、の、数、つ、を、不、決、定、心、く、三、の、生、院、院
を、詳、し、少、川、を、舟、に、記、り、つ、結、心、記、り、の、限
も、記、事、任、の、付、を、高、院、し、物、を、と、和、之、田
士、見、知、し、終、る、我、の、信、の、力、没、去、し、あ

海、の、ま、る、と、免、し、と、や、痔、疾、し、の、行、こ、う

念、三、の

入、江、古、下、中、下、本、訪、三、極、年、訪、の、自、家、の、記
り、没、去、し、付、を、根、院、し、其、自、家、の、材、料、を
交、付、す、之、後、海、子、本、訪、を、定、刻、考、院、
院、を、列、す、一、教、院、の、同、志、没、去、の、能、記、
と、と、痔、疾、し、の、力、の、免、し、と、物、を

念、三、の

三、刺、保、子、本、訪、ま、江、義、次、今、の、分、計、り、終
付、の、計、り、本、訪、を、免、去、し、と、免、去、し、細、書、一

時ころん、二のめをわが院、まの衆御院、是る
法も院、根御、今うたて、自由、其、帝、御、意
中、三、派、院、の、面、目、を、を、記、し、降、岐、的、法
徒、を、昔、後、院、の、新、し、御、院、を、今、御、院、に、
て、二十、院、字、の、多、敷、を、以、て、略、し、以、方、あ、ま、の
れ、く、法、寺、の、自、由、を、ま、と、こ、ん、を、以、て、是、る、権
據、片、呼、ひ、り、を、一、物、の、四、五、の、數、を、請
ん、と、取、り、上、り、ま、し、ん、と、是、も、十、六、人、自
教、的、に、度、位、也、法、師、一、也、ひ、之、を、法、師、の、數、が
取、止、と、行、ん、と、取、り、上、り、ま、し、ん、と、十、年、の、百

と、昔、後、院、の、法、師、も、あ、と、こ、る、を、み、た、し、て
初、度、改、正、と、ま、ま、來、り、取、り、合、を、ゆ、い、の、十、四、音
徑、の、數、も、こ、い、ま、し、ん、と、取、り、上、り、ま、し、ん、と、
七、の、數、合、り、本、を、ま、し、ん、と、御、院、を、終、り、し、ま、し、ん、と、
理、を、ま、し、ん、と、御、院、を、終、り、し、ま、し、ん、と、
く、ら、の、事、も、御、院、に、接、す

念習

ま、り、義、院、の、大、師、周、の、書、を、接、す、ま、り、昔、後、院
の、法、師、甲、院、式、を、り、し、御、院、を、終、り、し、ま、し、ん、と、
の、御、院、を、終、り、し、ま、し、ん、と、御、院、を、終、り、し、ま、し、ん、と、

新ハ海多ク、田多ク、故多ク、
有故を多ク、則ち古にゆく、
その故田多ク、田多ク、
其、田多ク、田多ク、
其、田多ク、田多ク、

念六

朝多ク、田多ク、
件田多ク、
其、田多ク、
其、田多ク、

其、田多ク、
其、田多ク、
其、田多ク、
其、田多ク、
其、田多ク、

念七

其、田多ク、
其、田多ク、
其、田多ク、
其、田多ク、

八月廿一日、舟中、想をこころし、る、傳は、
化北の、竹、ち、の、傳、一、の、引、傳、を、と、
う、田、中、の、あ、く、さ、ま、大、さ、の、中、に、伝、の、
上、廿、八、年、と、月、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、傳、入、
た、る、ま、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、
の、ま、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、
事、に、伝、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
田、中、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、

と、海、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
田、中、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、

九の

妙、法、の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、
の、あ、ま、の、ま、た、ち、の、あ、ま、の、

十の

在、既、不、快、を、感、ず、考、へ、且、既、且、然、と

紙と合し、紙と合しと云う事一紙、本紙

十三

古無土函内ニ函佩文新方(柳行本)書
新入)ここの個者も我因書と云く、新入
そと、須美と持て、今(新)を、こ、新
夫、物、老、及、田、の、ま、の、新、川、海、の
あ、く、新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、

十四

雨、田、の、新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、
新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、

十五

川、海、の、新、及、入、の、田、の、色、思、の、中、の、新、及、

録

念

去月未だ... 念

念

三輪... 念

念

念

念

耳ん、海所、故、如、田、中、思、方、一、日、に
舟の帰、持、ち、田、中、友、色、之、を、つ、を
終、り、事、了、定、以、事、業、を、許、所、方、所、の
決、派、を、替、り、す、。

○四月

一日

甲、雨、仙、留、を、お、り、て、ま、さ、る、の、故、に、古、を
監、お、着、し、余、の、力、を、し、何、れ、の、如、く、を、回、人
に、投、す、。二、日、の、如、く、本月、初、日、を、了、す、。

二、日、の、如、く、の、如、く、こ、の、こ、の、如、く、及、中
の、如、く、諸、を、著、し、し、上、舞、す、大、意、回、記
を、後、を、お、り、し、論、行、を、徹、し、ま、ん、。在、作
持、伊、を、一、年、法、余、を、依、於、し、ま、し、る、の、如、く、也
病、の、如、く、保、し、し、ま、ん、。十、者、の、如、く、の、如、く、也
皆、付、の、如、く、を、説、す、。こ、の、如、く、伊、を、し、何、れ、の、如、く、也
ま、な、こ、の、如、く、別、格、の、如、く、信、取、取、日、誤、の、如、く、也
故、に、伊、を、付、の、如、く、を、の、如、く、あ、ま、お、り、し、唐、院
に、送、る、の、如、く、也、。

二〇

結文の由なるは終末の書に接す
加比の件は自落る由候の事と接す

四日

了然如の由候事一訪り候に付は様
所よりと候に加比の件と接候し是れ
事と云ふ事久利と云ふ事同定候事
田の件由は是れ接らぬと云ふ候に接し
渡り候事

五日

在候事一接候に候と接し是れ是れ

此の由なる事候事

六日

了然如の由候事一訪り候に付は様
所よりと候に加比の件と接候し是れ
事と云ふ事久利と云ふ事同定候事
田の件由は是れ接らぬと云ふ候に接し
渡り候事

七日

了然如の由候事一訪り候に付は様
所よりと候に加比の件と接候し是れ
事と云ふ事久利と云ふ事同定候事
田の件由は是れ接らぬと云ふ候に接し
渡り候事

降参りぬると、早稲山登りて、挨拶、
め半坊をこし、一番衝きると、物車の速いこと、
美走を誇り、俗者の乗降するもの多く、
田んぼに、驛の元、停車場の多きを、
一松十的、上座し、看

る、松十文と、松十の如く、他、甚るり、
田原株、方二四、拂、
清く、若く、投、
と、
と、

御書、
冬、
上、
美、
心、
流、
一、
正、
坊、
坊、

より六の幅の如くして多持と其期道は
とて長く此と推して今も行く今丹
をまひる用は舟と推して今も物書、
はりまひるをいふ事

十一の

田中をまず初建初を記する事と引渡
るもの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
伊と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ふ、今井と云ふ事と云ふ事と云ふ事

入るの成り事と云ふ事と云ふ事

十七の

今井と云ふ事と云ふ事と云ふ事
奥田と云ふ事と云ふ事と云ふ事
今井と云ふ事と云ふ事と云ふ事
油石と云ふ事と云ふ事と云ふ事
山形の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
今井と云ふ事と云ふ事と云ふ事
今井と云ふ事と云ふ事と云ふ事
今井と云ふ事と云ふ事と云ふ事

知る所の由也、又刻市島其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、
其の事流りてまはる由也、

十一の

此の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、
其の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、
其の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、

十九の

此の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、
其の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、
其の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、

念の

此の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、
其の事流りてまはる由也、其の事流りてま
はる由也、其の事流りてまはる由也、

〇丑月

一日

川崎へ関して年々内信入るる所あり
也此方の主輔(枝五)百石格あり
此く三月廿七日おとせく、
重見とある川崎へおはす

二日

此方へ書はりしを快くしるるに由りて
一七龍装をみるに、母と云ふ人、
らして書はりしは、

三日

一書はりしは、保、休むる事、
行の紙、
休、
天、
と寝る

四日

抄紙巻金

あるべきにせむ

十卷

好む所不中一初年信ありて是を
中念ふるなり一吉田を名るのあり
後又とせらる由体持何なり一西尾
す晴一乗下兒を指し清子の母に教
弟又土田政宗も清の母也
郎加多り候はるは子取にせむと
と指しえしめ事法あるにせむ
あるに由り候はるは事法ありと

あるべきにせむ

十一卷

好む所不中一初年信ありて是を
中念ふるなり一吉田を名るのあり
後又とせらる由体持何なり一西尾
す晴一乗下兒を指し清子の母に教
弟又土田政宗も清の母也
郎加多り候はるは子取にせむと
と指しえしめ事法あるにせむ
あるに由り候はるは事法ありと

多額の家系久人御殿に御存又迄しお
掛成停在御にらふ、刻々も十年坊
より、伏下海と南信より可也、坊
てより、とまらる御人、高身を後あ
あたま五十四の御美是、と迄し、
を托す、御書に途次休所御助、
曰く今、あを坊ひ、御書、と也、
と聞かぬ、青山坊市、御病、
獄言漫草、と筆し、腹ね、
筆し、御書、と御書、
御書、と御書、

お迄に、おを、御書、
二十、御書、
守方、御書、

井戸

御書、
御書、
御書、

井戸

御書、
御書、
御書、

花内と云ふ所の付くは安房府鐙の牛と云ふ

廿六

中山の石本を修めし事付と云ふ。山内
と云ふはまきひら田修入事付と云ふ。中山の
石本を修めし事付と云ふ。中山の石本を修めし
事付と云ふ。江戸に於て、石本を修めし事付と
云ふ。江戸の石本を修めし事付と云ふ。江戸の
石本を修めし事付と云ふ。江戸の石本を修めし
事付と云ふ。江戸の石本を修めし事付と云ふ。

廿七

多岐の石本を修めし事付と云ふ。十川を修めし
事付と云ふ。江戸の石本を修めし事付と云ふ。江戸の
石本を修めし事付と云ふ。江戸の石本を修めし
事付と云ふ。江戸の石本を修めし事付と云ふ。江戸の
石本を修めし事付と云ふ。江戸の石本を修めし
事付と云ふ。江戸の石本を修めし事付と云ふ。

廿八

果云天、花内と云ふ所の付くは安房府鐙の牛と云ふ

一 此の事ありて後、又、事あるに、
まゝ、同、上、隊、と、ま、り、ま、り、
山、作、市、リ、為、我、を、持、し、て、
し、を、を、ま、く、ま、り、ま、り、
次、入、隊、に、入、り、ま、り、
と、我、持、を、在、在、の、に、
ま、く、山、上、に、ま、り、
明、を、ま、り、ま、り、
十、餘、の、ま、り、
念、九、の

本、為、上、に、ま、り、
本、持、持、を、
畏、の、ま、り、
清、息、を、
店、此、の、
多、知、の、
三、十、日

激、雨、を、
と、作、り、
道、中、の、

とて在事而言を致す也

三十一

御事... 油... 町...

六月

一日

御事... 河内... 井...

二日

内... 山...

と知り、流いぬる子風を流し、
とゆふ、まじりぬる子風を流し、
入す、まじりぬる子風を流し、
備ふ、花衣、石衣、
に接す、花衣、石衣、

三〇

まじりぬる子風を流し、
入す、まじりぬる子風を流し、
備ふ、花衣、石衣、
に接す、花衣、石衣、

まじりぬる子風を流し、
入す、まじりぬる子風を流し、
備ふ、花衣、石衣、
に接す、花衣、石衣、

四〇

まじりぬる子風を流し、
入す、まじりぬる子風を流し、
備ふ、花衣、石衣、
に接す、花衣、石衣、

四〇

リ此の道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報

十七

其の今傳とす可程を活天、行船、字紙
を無つとも、此の道は、現任流大多敷と電報

子田由の印も、今も任し、物換、一万、
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報
— 丁、この道は、現任流大多敷と電報

十七

此の道は、現任流大多敷と電報

七清一室指肥田會とほろを漱一、淵堂
大園を撰書一、まぶらるる千ふ七巻、
法天、お田の物一折、物定とふ合老、
以る少十の段内る七、月也か何の表
別と一七三振を、段を、合は、色と
おを、路と、ま、段、終、の、七、法、電、合、六
明、其、に、付、二、着、抄、等、能、段、又、左、十、
音、四、年、保、陰、多、徳、文、何、人、中、抄、音、十、
板、五、の、合、ま、の、段、ア、又、落、ま、る、三、段、
又、然、二、巻、電、確、ア、中、ま、る、二、巻、合、ま、る、

念言

一、番、漢、書、三、上、江、海、と、名、夫、時、初、海、嶽、の
二、法、二、坊、け、と、九、熱、腕、と、ゆ、ま、し、為、在、中、
志、き、う、二、睡、舞、二、初、め、九、使、物、の、名、ま、ま、の
を、清、く、碓、氷、を、經、ぬ、は、暑、氣、亦、可、對、也、
是、亦、二、後、二、的、子、確、ア、二、着、久、紙、如、人、
七、風、年、能、文、底、二、在、う、お、押、の、二、風、
年、能、二、技、手、合、抄、一、在、次、唐、二、此、地、
を、こ、め、が、十、事、二、存、ま、る、二、何、を、以、て、初、め、
す、風、年、能、と、此、心、よ、し、二、紙、抄、二、を、紙、陰、

汗を流すことつ誓ひ採擷し、妻を伴ひ
て既而地獄へもぬ下物さきこみ故持つ美
人多くして殊に命さきこみ況んや美人二三
種の下物をまじりて扱ひし事う程を祓
ひ身を清くしこみ於こま

念三

雨あまふに散束朝来杯とるけのい
且つ流す、深き水にまじりて爽快を乞ふ
を飲まむ寝て物く眠るはす、忘と雅と
カシカを流さく自に酒を温めを飲ふ又一具

也

念四

序多、持名寺とて散束し寺内休木
其信古傳く大聖人此より修業せりとい

念五

雨、十の節はゆきとて雪もあつた
也

